



平成 21 年 2 月 6 日

各 位

会 社 名 プレシジョン・システム・サイエンス株式会社
 代表者名 代表取締役社長 田島 秀二
 (コード番号：7707 大証ヘラクレス)
 問合せ先 取締役業務本部長 秋本 淳
 (TEL 047-303-4800 <http://www.pss.co.jp/>)

業績予想の修正及び特別損失の計上に関するお知らせ

最近の業績動向等を踏まえ、平成 20 年 8 月 14 日の決算発表時に公表した業績予想を、下記のとおり修正するとともに、特別損失の計上についてお知らせいたします。

記

1. 連結業績予想

(1) 第 2 四半期連結累計期間業績予想の修正 (平成 20 年 7 月 1 日～平成 20 年 12 月 31 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	1,750	20	10	0	0 円 00 銭
今回修正予想 (B)	1,875	151	83	23	542 円 46 銭
増 減 額 (B-A)	125	131	73	23	—
増 減 率	7.1%	655.0%	730.0%	—	—
(参考) 前中間期実績 平成 19 年 12 月期	1,478	△210	△273	△399	△9,316 円 57 銭

(2) 通期連結業績予想の修正 (平成 20 年 7 月 1 日～平成 21 年 6 月 30 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	3,700	100	80	40	933 円 71 銭
今回修正予想 (B)	3,500	160	80	5	116 円 71 銭
増 減 額 (B-A)	△200	60	0	△35	—
増 減 率	△5.4%	60.0%	0.0%	△87.5%	—
(参考) 前期実績 平成 20 年 6 月期	3,397	△141	△248	△400	△9,350 円 09 銭

2. 個別業績予想

(1) 第2四半期個別累計期間業績予想の修正（平成20年7月1日～平成20年12月31日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想（A）	1,400	15	2	0	0円00銭
今回修正予想（B）	1,572	133	34	△11	△256円77銭
増減額（B-A）	172	118	32	△11	—
増減率	12.3%	786.7%	1,600.0%	—	—
（参考）前中間期実績 平成19年12月期	1,088	△196	△263	△565	△13,189円73銭

(2) 通期個別業績予想の修正（平成20年7月1日～平成21年6月30日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	2,900	35	8	5	116円71銭
今回修正予想（B）	2,850	90	△10	△60	△1,400円56銭
増減額（B-A）	△50	55	△18	△65	—
増減率	△1.7%	157.1%	—	—	—
（参考）前期実績 平成20年6月期	2,627	△155	△255	△617	△14,409円51銭

3. 連結業績予想の修正理由

(1) 第2四半期連結累計期間業績予想の修正理由

当第2四半期連結累計期間は、主力OEM先であるロシュグループ及びキアゲングループ向けDNA自動抽出装置について、バージョンアップによる新製品が本格的に出荷開始されたことから、予想を上回る好調な売上を確保することができました。売上高は1,875百万円（当初予想より125百万円増）の見通しとなりました。それに伴い、売上総利益も773百万円（当初予想より53百万円増）の見通しとなりました。

また、販売費及び一般管理費についても、前連結会計年度より手掛けてきた様々なコスト削減策が功を奏し、開発費を中心に予想を上回るコストダウンとなり、622百万円（当初予想より78百万円減）の見通しとなりました。以上の影響により、営業利益は151百万円（当初予想より131百万円増）の見通しとなりました。

一方、当社は欧州への輸出割合が高いため、近時の急激な円高の影響を大きく受け、営業外損失として為替差損75百万円を計上した他、子会社のPSSキャピタル(株)が管理運営するベンチャーファンドの規模を20億円から10億円に縮小したことに伴い、管理報酬に関する過去の超過受領分をファンドに返還するため、特別損失として投資事業組合管理報酬返還金33百万円を計上することとなりました。

こうしたマイナス要因はあったものの、経常利益は83百万円（当初予想より73百万円増）、四半期純利益は23百万円（当初予想より23百万円増）の見通しへと、上方修正するものとなりました。

(2) 通期連結業績予想の修正理由

売上高の当初予想は、為替の想定レートを1ドル=105円、1ユーロ=160円にて算出しておりますが、近時の為替動向を勘案し、下期の想定レートにつき、1ドル=90円、1ユーロ=115円にて算出し、現在の受注動向なども勘案いたしました。その結果、当社は欧州への輸出割合が高いことから、ユーロ下落の影響が大きく、売上高は3,500百万円（当初予想より200百万円減）の見通しとなりました。

売上総利益は、上期の売上高が好調であり、コストダウンによる利益率の改善も当初予想を上回っておりましたので、為替の影響がなければ大幅な増益確保となるところでしたが、売上高の見通しと同様に、下期の為替レートの影響が大きく、当初予想の1,500百万円から100百万円減少の1,400百万円の見通しとなりました。

一方、販売費及び一般管理費は、開発費を中心に予想以上のコストダウン効果があり、当初予想の1,400百万円より160百万円減少の1,240百万円に抑えられる見通しであります。したがって、営業利益は160百万円（当初予想より60百万円増）の見通しとなりました。

営業利益ベースでは上方修正となりましたが、上期に発生した営業外損益（持分法による投資利益8百万円、為替差損75百万円など）の影響により、経常利益は80百万円（当初予想どおり）の見通しとなりました。

また、記述のとおり、特別損失として投資事業組合管理報酬返還金33百万円を計上した他、法人税充当額などにより、当期純利益は5百万円（当初予想より35百万円減）の見通しとなりました。

4. 個別業績予想の修正理由

連結業績予想の修正と同様の理由により、売上高の通期予想は2,850百万円（当初予想より50百万円減）、営業利益は90百万円（当初予想より55百万円増）の見通しとなりました。

また、上期に営業外費用として、為替差損80百万円、米国子会社向け貸付金に関する貸倒引当金26百万円を計上した影響から、経常利益は△10百万円（当初予想より18百万円減）の見通しとなりました。

同じく、上期に特別損失として、関係会社株式評価損45百万円を計上したことから、当期純利益は△60百万円（当初予想より65百万円減）の見通しとなりました。

5. 特別損失計上のお知らせ

(1) 連結決算における特別損失

固定資産売却損	607千円
固定資産除却損	121千円
<u>投資事業組合管理報酬返還金</u>	<u>33,869千円</u>
特別損失計	34,598千円

(2) 個別決算における特別損失

固定資産除却	16千円
<u>関係会社株式評価損</u>	<u>45,246千円</u>
特別損失計	45,262千円

以 上